地域情報発信型の英語教育の可能性
英語オーラルガイド授業の実践報告

遠藤昌子

キーワード
タスク重視の英語授業
地域文化発信
生涯学習

1．はじめに

Crystal（2003）は英語母語使用者(注1)が約3億2千万人から3億8千万人いるのに対して、英語を第2言語とする人口は約3億から5億人であり、英語を外国語として使用する人口は約5億人から10億人であるという（p.61）。英語を母語、或いは第2言語として使用する国では、英語はESL（English as a second Language）として教育され、英語教育の主目標とされるのは学習者の英語圏文化の理解と文化への適応を促進すること、また母語使用者並みの英語運用能力の獲得である。一方、それ以外の国では、外国語としての英語教育EFL（English as a foreign Language）が行われる。

EFL教育環境では、ESLとは周囲の言語環境がことなり、英語圏文化理解と文化適応が目標ではなく、英語の到達目標レベルも母語使用者並みの運用能力の育成ではない。EFLにおいては、母語使用者、非母語使用者双方とコミュニケーションをとる英語運用能力の育成が目標となる。「『英語が使える日本人』の育成のための戦略構想（文部科学省　英語力・国語力増進プラン　平成14年7月12日）」でも、大学での英語教育に求められるのは「国際社会に活躍する人材などに求められる英語力」育成であるとされている。

学生たちが将来国際社会で活躍するために、鈴木（1999）は「国の

内外において外国の人から求められた際に、自分のこと日本のことを、外国語で思い切り話したり書いたり出来なくては困る時代になっているのです。いやそれどころか、むしろ自分のほうから積極的に機会を狙って、進んで日本のよさ、すばらしさを宣伝する必要さえもあるのです。」(p.108) と述べ、日本を発信できる能力の育成が必要であり、大学英語教育が英米文化理解を偏重することに異を唱えた。現状でも、大学英語教育においては英語圏文化学習が行われることが多いが、「国際社会に活躍する人材」育成には、日本文化(注2)を英語で発信する事を目的とする英語教育の必要があるのではないだろうか。

本稿では最初に、日本文化を英語で発信する教育に関する先行報告例を示す。次に、実際に行った授業の概要を記す。最後に、授業に関する学生アンケートの結果をみて考察を行う。

2．日本文化発信型英語教育の実践例

学習指導要綱では、英語教材の選択に関する中学高校の両方に共通する規定として、教材は「英語を使用している人々を中心とする世界の人々、及び、日本人の日常生活、風俗習慣、物語、地理などに関するうちから」取り上げるべきとしている。前述の鈴木（1999）は、日本の外国語教育の改革には英語教育を受信から発信型へ転換する必要があり、「日本人としての、自分の借り物ではない意見や考えを、外に向かって外国語で立派に言える人、日本に固有な事情を外国人に説明して、しかも相手を説得できる人を養成する。」(p.70) ことの重要性を訴えた。大正大学の英語教育では鈴木の考えと同様に日本文化に根付いた人材を育成することが教育目標とされた。西蔭（2000）によると、大正大学の DLP（Developing Language Program）英語教育には４つ目標があり、それは「コミュニケーションのための、世界通用語としての英語力の習得」、「レベル別でリスニング力とスピーキング力を育成する」、「英語による自己表現能力・意見発表能力の育成」、「日本文化に根付いた国際人の養成」である。この発信型英語教育プ

ログラムでは授業時間の一部を使っての英語でのスピーチやディベートが行われ、スピーチでは各学生が自由なテーマで話し、ディベートは「環境問題」、「結婚問題」、「銃問題」、「渋滞問題」、「臓器移植問題」などがテーマであった。授業後のアンケートの結果、この発信型英語教育授業を肯定的に評価した学生が多いことが報告された。しかし、この実践教育報告の段階では、目標として掲げられた日本文化を内容とする学習は実施されておらず、段階的導入が次の課題と述べられた。

益田（2006）は英語教育では「文化相対主義(注3)」の視点から、英語圏文化と日本文化を価値の優劣でなく、総体的な視点からみて、「文化背景の異なる人たちと対等な人間関係を築く教育」を意識するべきであると述べる。そして、そのためには「1）学生が日本文化を知る機会となるような英語教材の使用、2）英語を使っている外国人に理解されやすい順番での表現、3）受身で知識を蓄積する授業ではなく、学生が英語使用者として、自分の知識を生かし、必要に応じて知識を増やしながら作品を創作する練習」（p40）が効果的であるといい、それを実践するための授業計画を作成した。1）の日本文化を知るための教材として、日本に関する論説文、落語、漫画などが使用された。2）では英語の論理に基づく説得力ある表現形式の演習を行った。3）の学習者が自分の知識を生かして作品を創作する練習として、学生にはタスク(注4)が与えられた。

タスクは、日本の住生活、衣生活や、落語、昔話などに関して調べ、それをまとめて英語で発表するというものであった。授業開始から半期後に学生に対するアンケート調査が行われたが、この日本情報の英語発信型授業に対して、英語力向上という点で受講者の約 80%が肯定的に評価した。さらには、日本文化を英語発信する必要性に関して、「20 年後の日本においては外国人に日本の生活文化を説明する必要性が高まる」と 70% が回答した。このように将来は外国人に日本の生活文化を説明する必要性が高まる、と学生が考えたことは、学

習動機付けとなり、この授業が英語力向上に肯定的な影響があった要因であろう。

英語教育の場で日本文化紹介を取り入れようとする動きは、英語教育雑誌にもみられ、『英語教育』2007年6月号は「英語で日本を発信しよう」という特集を組み、英語で日本を発信するための考え、具体案などを掲載した。斉藤（p32-33）は「日本人の外見・言葉・文化・風俗習慣が誤解されやすいのは西洋人にこびてわざと間違った日本を演出するからだ」といい、英語で日本に関する情報発信をするためには、日本人自身が日本をよく知るために、日本語、日本史、日本文化の勉強をする必要がある。さらに日本のことを正しく説明するだけの英語力を持ち、西洋人が期待するような日本人像を演じないことが必要だという。

同誌には、ALT(注5)との文化摩擦を未然に阻止するためには、日本の学校の仕組み、生徒の特質などを説明する必要性があるという現在の状況が述べられ、具体的な説明例（富永、p12-13）、新人ALTに日本の病院での診療の受け方や、郵便サービスの仕組みなど日本での生活に必要な説明するための表現例（中邑、p20-21）などが掲載された。さらに、松岡（p26-27）は、日本文化というと、古都を中心とする伝統的文化が発信されることが多いが、そういった伝統的文化だけではなく、様々な地方文化を紹介するべきであることを提言した。そうすることで日本が均質的な文化を持つ国、というステレオタイプが払拭できるのではないかと言う。松岡は地方文化の一例として北海道をとりあげ、北海道には開拓民が各地から持ち込んだ伝統文化と、開拓の過程で取り入れた西洋文化の混交した独自の文化が存在する、と述べた。

大学英語授業でも日本文化を英語コミュニケーションの内容とする例があり、その実践例が報告されている(注6)。また、日本文化紹介を中心内容とする大学生対象英語教科書も出版され(注7)、例え

ば、“Let's Talk about Japan in English”（金星堂、2003）では日本の起源、地理、気候、憲法、政治、経済、教育、宗教、国民性、中流意識、年中行事、食事、スポーツ、旅行が学習内容であり、“Hello Again!”（トムソンラーニング、2007）は、六本木ヒルズ、浅草、国技館、平安神宮、人力車、新幹線、大阪城、パチンコ、朝市、歌舞伎などの新旧日本文化を紹介する。しかし、前述の松岡が言うように、北海道には独自の慣習、文化が根付いているので、日本の標準的な慣習、季節の行事、古都、寺社仏閣に関する情報などを学ぶだけでは、不十分ではないだろうか。標準的な日本の季節感や伝統的な慣習は、学生の生活実感から、かけ離れたものであることもある。それゆえ、北海道の大学英語教育において、特に日本情報発信型の授業においては、地域情報を取り上げることが有意義な一つの方向ではないかと考える。

次には、「オーラルガイド研究」授業の概要を述べる。授業の目的と設立の背景、授業目標とした通訳ガイドの説明、授業環境、授業の内容と流れ、学生によるガイド発表の順に述べる。

３．授業の流れ

３－１　授業の目的と授業設立の背景

「オーラルガイド研究」は2007年秋期から開始された新科目である。学習目標は、日本文化や北海道、札幌の情報を英語で発信する能力の育成である。授業では、外国人訪問者に対して、日本の一般事象と共に地域情報を英語で伝える力の育成を重点目標にした。その理由は第１に、地域での就職や進学によって、長期間北海道に在住する学生が多いことであった。学生にとっては身近な地域文化を知り、その情報を英語で発信する学習は、実用的な内容であり、関心を持って学習することが期待できた。また、社会人になっても職業上で必要になる場合もあり有意義に活用できるものであろうと思われた。

第２には社会的な要因である。近年、北海道を訪問する外国人が継

続的に増加している。国際観光振興機構（JNTO）(注8)の2006-7年の調査(注9)では、都道府県別では、北海道は東京、大阪、京都などに次いで7番目に外国人訪問者数が多く、また、前年比でも東アジアからの訪問者が増加したことが報告されている。さらには、JNTOは2008年度に開催される北海道洞爺湖サミットの影響で北海道への外国人訪問者数が増加する事を予想している。このように外国人訪問者が増加した場合、一般市民でも北海道内で外国人に出会い、英語で説明し、質問に答える機会が増加し、多くの職業分野で、海外からの訪問者に英語で対応できる人材がさらに必要となると考えられる。以上が、「オーラルガイド研究」の授業で北海道や札幌の地域情報を英語で発信する事を目的とした背景であった。

３－２　授業の概要

３－２－１　通訳ガイドとは

「オーラルガイド研究」は地域情報を中心として日本文化を英語発信できる能力を育成することを目標としている。授業では英語通訳ガイドに必要な基礎的な知識や英語を学んだ。通訳ガイド（正式名称通訳案内士）は国土交通省の通訳案内士試験合格者に与えられる国家資格で、国土交通省の説明では「通訳案内士は、単に語学力が優秀というだけではなく、日本地理、日本歴史、さらに産業、経済、政治および文化といった分野にいたる幅広い知識が求められており、外国人旅行者に日本をより良く理解してもらうための、いわば「民間外交官」として重要な役割を担っています(注10)。」とされている。有償での通訳ガイド業務は有資格者のみが行うことが法令で定められている(注11)。しかし、試験は高い英語能力のほかに日本の地理、歴史、経済、社会、文化などに関する広範囲で詳細な知識を要求されるために難関で、英語通訳ガイド有資格者は北海道では現在約100名である。こうした状況であるため、北海道では増加する外国人旅行者に対応できるように、2008年9月に第1回の北海道地域限定通訳案内士認定試験が行われる予定である(注12)。授業は、将来北海道限定通訳案内士

認定試験を目指す学生がいることも考慮して行った。

３－２－２　授業の環境

授業は2007年10月1日から2008年1月28日にかけて12回行われた。1回の授業時間は90分で、札幌大学女子短期大学部英文学科の2年生21名が履修し、各学生がネット上の情報を検索できる授業環境であった。

３－２－３　授業の流れ

1学期間の授業の流れは表1で示したように、学期初めの数回の授業ではウエブサイトを利用してガイドのための英語表現と日本文化の英語説明を学習した。使用したのは日本国際観光振興や、通訳ガイド試験予備校などの日本情報関連サイト(注13)であり、必要に応じて授業内でアクセスし、情報を取得し学習に使用した。ガイドに必要な表現学習では、学生がこれまでの旅行や海外研修の経験から、必要と思われる英語での道案内表現や禁止事項の伝達表現、提言の仕方などをグループごとに調べクラスで発表した。同時に、日本文化に関しては、学生が一番関心を示した食文化を中心に学習した。日本の食文化の中でも、様々な伝統食材、伝統料理、郷土料理、季節料理、日本独特の食事マナーなどの英語での説明の仕方を学んだ。

次いで、学期半ばの授業は北海道に関しての学習であったが、北海道や道内の主要都市（札幌、函館、旭川）、他の諸行政機関、観光協会などのウエブサイト検索で(注14)、情報を得て北海道に関するガイド実践演習を行った。一例として、「函館」、「小樽」、「旭山動物園」、北海道のシンボル「ハマナス」、「丹頂」といったテーマで情報収集と英語発表にグループごとに取り組んだ。

学期の後半では、札幌市や札幌の公共、民間の機関が運営するウエブサイト(注15)から情報収集を行った。学生は札幌の歴史的建造物、食文化、歴史、人物、公園、施設などの概略を学習した後で、個人あるいはグループで学期末に発表するテーマを決定した。発表は個人で行

う場合は３分以上、２名のグループは６分以上、３名は９分以上の長さにするように指示された。

学生は発表のために、最初にテーマに関する情報検索を行った。授業中に、学生から、自分の発表する場所の「近くを通るが、行ったことがない」、「行った事はあるが、ちゃんと見てない」、「小学校の時に見学した」との声が聞かれた。良い機会なので直接行ってみようという声が一部から上がり、クラスの半数は発表テーマの場所を訪れた。例えば、スープカレーをテーマに選択したグループは大学のそばのカレーショップに実際に食べに行き、そのカレー店の店主に、カレーへのこだわり、材料の入手先などを取材した。札幌テレビ塔を選んだ学生は、展望台まで上がりテレビ塔のマスコットの付いた携帯ストラップを購入し、「観光に来た外国人がするかもしれない行動をとった」という。道庁をテーマに選んだ学生は、「ボランティアガイドの説明を聞き、フレンチ積みレンガや重厚な窓枠に感動した」。そして、「生まれた初めて道庁に入ったら、思っていたより立派で歴史を感じた」という。また、札幌のプロスポーツチームをテーマにした学生は、ネットで公式サイト、ファンによるブログと多くの情報を集めた。このように学生は思い思いの方法で、情報を収集した。

次には、情報を整理して日本語のガイド発表草稿をA4用紙一枚程度に作成した。学生は十分な情報量のある内容で、論理的で英語に翻訳しやすい日本語で書くよう指導を受け、日本語原稿を作成した後に英語原稿を作成した。英語原稿は内容の論理性と流れに重点を置いて作成され、次いで発表時の視覚的補助として画像とパワーポイント作成を行った。

学期後半には、2人のプロの英語通訳ガイドによる特別講義が行われた。特別講義ではガイド原稿作成方法、英語によるモデルガイド例、通訳ガイドとして働くまでの英語勉強法、また現在の勉強法、将来へのビジョンなどが紹介された。2人のプロガイドは共に40代の女性であり、英文学科卒業の主婦、薬学科卒業の元薬剤師であるが、結婚後子育てを終えた時期に、英語学習を再開してガイドの仕事に付

いた経歴の持ち主である。プロガイドによる特別講義は、英語と日本語で行われたが、英語モデルガイド例のテーマの一つは、札幌時計台であり、入り口正面にある赤い星の由来、建築様式、時計の維持管理にまつわる逸話などが紹介された。もう一つのテーマは、札幌大通り公園であった。大通り公園の作られた当初の目的、公園内の彫刻から見た札幌の歴史、大通り公園の四季の特徴やそこで開かれる祭典などが特別講義のモデルガイド例の内容であった。

表1　各授業の内容

1．授業概要の説明。ガイド英語表現のリスト作成（学生）。北海道のシンボル（鳥、花、樹木）英語説明の演習。札幌ガイド例紹介
2．ガイドの目的と留意事項説明。日本情報検索サイトで日本文化に関する情報収集と英語発表。
3．日本の食文化情報検索、日本食文化リスニングサイト学習。日本の食物に関する説明文作成と発表。
4．北海道情報検索サイト利用。各自選択テーマで情報収集、英語発表。
5．４の継続
6．札幌情報検索サイト利用、情報収集演習。
7．６の継続　札幌ガイド例紹介
8．札幌情報検索サイト利用、各自の英語ガイド実践テーマ決定
　プロ英語通訳ガイドによるデモンストレーション（時計台）
9．札幌ガイド発表用日本語原稿作成
10．札幌ガイド発表用英語原稿作成
　プロ英語通訳ガイドによるデモンストレーション（大通り公園）
11．学生によるガイド実践発表
12．授業のまとめ　学生によるアンケート

学期末の11回目の授業では学生による英語ガイド実践発表が行われた。表２は学生による発表テーマである。札幌の代表的な建造物、施設、公園、祭典などを取り上げる学生が多かった。発表は口頭で原稿を持たずに行われた。発表後に、日本語・英語の原稿はまとめて冊子として印刷され、最終の授業で学生に配布された（資料１参照）。最終の授業では、学生は授業に関するアンケートに回答したが、次にはそのアンケートの結果を見ていく。

表２　ガイド実践発表テーマ

札幌の建造物	札幌ファクトリー、テレビ塔、JR タワー
札幌のイベント	雪祭り、ホワイトイルミネーション
札幌の公園、自然	大通り公園、羊が丘展望台、藻岩山
札幌の名所	旧道庁赤レンガ、円山動物園
札幌の食べ物	スープカレー
札幌のスポーツ	札幌のプロスポーツチームと競技場
札幌近郊	定山渓温泉

４．学生アンケートの結果

この授業の目標としたのは前述のように、地域の情報発信型の英語教育であり、授業方法には、タスク重視の言語教授法（TBLT）(注16)（Ellis, 2003）を用いた。前述の益田（2006）の場合と同様に、情報発信タスクとして情報収集、情報整理、ガイド原稿作成、発表を行った。日本・地域の文化発信というのは非常に広範囲なテーマであり、膨大な情報量があり、継続的に新たな情報が追加される。そのため、現在の情報を知識として学習し、記憶するだけでは十分ではなく、ネットで最新情報を利用できる現代では、情報を取得し、整理し、発信する学習方法と作業過程を学ぶことが有意義であろうと考えた。

授業では卒業後の英語学習の動機付けを２つの点で試みた。ひとつは、地域で活躍するプロ通訳ガイドによる特別講義を行ったことである。学生にとっては母親のような世代の社会人女性が、英語の仕事でプロとして働く姿を間近にすることで、学習を継続する意欲に肯定的な影響があるのではと考えた。もうひとつは、学生の最終発表の原稿を冊子にまとめて配布したことであった。学生の作成した英語ガイド原稿は、社会人になってから必要な状況で十分に利用できるものであり、それを利用することが、英語を継続学習するきっかけになるのではないかと考えた。

授業の最終回で実施したアンケートへの回答は、自由記述と回答選択で行われ、回答選択時の選択肢は４段階で、質問に「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」、「どちらかというとそう思わない」、

「そう思わない」から選択した。アンケートには履修者全員21名から回答が得られた。

アンケートは、1）英語での地域文化発信、2）英語授業で日本・地域文化を学ぶ事、3）将来の英語学習希望、4）授業方法、の４つについてであった。

最初に、１）英語での地域文化発信に関する質問への回答をみていく。質問は、第１に、これまでの外国人を案内した経験、第２に、卒業後の在住予定地、第３に、外国人訪問者にとって北海道は魅力的か？また、自分が伝えたい北海道の魅力は何かという質問であった。第４には、北海道の魅力を外国人に伝えるために自分ができる事、そして最後に、英語が地域情報発信に有効であるかという質問であった。

４－１　地域文化の英語での発信について

「今まで、外国人を案内したことがありますか？」という質問に対して表３で示すように、８名（約40%）が「はい」と答え、13名（約60%）が「いいえ」と回答した。「はい」と答えたものの中には、「道端で聞かれた」、「道を聞かれた」、「駅で聞かれた」、「デパートでアルバイトしていたときに北海道について質問に答えた」という回答もあり、案内した経験があると答えた８名中４名が短時間の外国人との接触であった。残りの４名は過去に外国人を案内した経験を持ち、「札幌でススキノに行き、夜景を見にJRタワーに連れて行ったが、案内や説明がうまく出来なかった」、「ホームステイを受け入れた時、部活が忙しく十分話せなかった」、「ホームステイのときに」、「オーストラリアの友人を案内した」という経験を持っていた（表４参照）。

表３　今まで、外国人を案内したことがありますか？

はい	８名
いいえ	13名

表４

状況
＊道を聞かれたとき
＊デパートで働いた時北海道について話した。
＊道端で聞かれた。
＊駅で聞かれた。
＊札幌ススキノ、JR タワーに夜景を見に連れて行ったが案内説明できなかった。
＊ホームステイを受け入れた時部活が忙しくてかまってあげられなかった。あまり話さなかった。
＊ホームステイを受け入れた時
＊オーストラリアの友人が来た時
＊勇気がない。

次いで「卒業後は北海道か札幌に在住予定ですか」という質問に対して、表５で示すように21名中19名（約90%）が「はい」と回答した。ほとんどの学生は卒業後も北海道に在住する予定であり、「家族がいるから」、「他の地域に住むことは考えられない」、「北海道が好きだから」、「就職先が札幌だから」と理由を記入したものもいた。

表５　卒業後は北海道か札幌に在住予定ですか？

はい	19名
いいえ	２名

次に、表６で示すように、「外国人にとって北海道は魅力的な場所だと思いますか?」という質問には全員が「そう思う」と回答した。次いで、「あなたが外国人に訴えたい北海道の魅力は？」という質問に対して、表７で示すように多くは「自然」、「食文化」、「ウインタースポーツ」、「人の暖かさ」と回答した。北海道の自然が魅力的だと思う理由は「四季がはっきりしている」こと、「自然の中でのイベント」があること、「札幌のような都会も都会過ぎないゆったりしたところがある」ことなどが記入された。

食文化に関しては、「北海道の食べ物はおいしい」、「お寿司やカニがおいしい」、「海産物がおいしい」、「スープカレー」などが北海道の食の魅力と回答された。「ウィンタースポーツ」を北海道の魅力とし

た学生は「スキー」、「スノーボード」、「雪の上でスポーツ」をあげ、そのほかに「人がやさしい」、「(人の) フレンドリーさ」と人的要素をあげた回答もあった。

表6　外国人にとって北海道は魅力的だとあなたは思いますか？

はい	21名
いいえ	0名

表7　外国人に訴えたい北海道の魅力はなんですか？

自然
＊大自然　＊雪、大自然　＊四季折々の自然　＊札幌は都会なのに都会過ぎない都市　＊自然を使ったイベント　＊四季　＊大自然　＊四季がはっきり　＊四季が明らか　＊夜景や四季の景色　＊美しい自然

人
＊人の温かさ親切さ。食べ物を含め日本人ならではのアイディアなどたくさんある　＊人がやさしい　＊フレンドリーさ

食べ物
＊食べ物の美味しさ　＊食べ物　＊フード　＊食文化　＊食べ物　＊おいしい食べ物　＊冬のアイスクリーム　＊お寿司やカニがおいしい　＊スープカレー

ウィンタースポーツ
＊スキー　＊雪、ウィンタースポーツ　＊ウィンタースポーツ　＊スキーやスノボ　＊雪の上のスポーツ（雪合戦とか）

複合的回答
＊外国人を案内した時、自分の知らない日本・北海道のよさに気づいた　＊自然と食べ物　＊食べ物がおいしく歴史的なものが多少ある　＊北海道にも日本独自の文化　＊食べ物、観光地　＊自然がきれいで、食べ物がおいしい　＊日本の情緒があり、自然がきれいで食べ物がおいしい　＊歴史があり、食べ物がおいしく人が優しく雪が魅力　＊自然、食、冬のスポーツ　＊伝統と自然と人のフレンドリーさがある　＊フード、歴史、人物像　＊ウィンタースポーツや食　＊食と自然　（欄外への書き込みがあり、総数は回答数を上回る）

「北海道の魅力を外国人に伝えるために自分の出来ることはなんですか」という質問には、表8で示すように「自分が知っている事を直接伝える」、「いろいろ案内してすばらしさを伝える」、「伝える」、「自分の知っていることを教える」、「ネットで世界に友達を作る、そして北海道を知ってもらう」、「ボランティアなどに参加」という実践行動型の回答が一番多く10名であった。ついで「北海道を良く知り、英語力を身につける」、「北海道に関する事と英語の勉強を継続」、「北海

道について勉強」、「英語力をつける」と北海道への知識を深めることと、知識の伝達手段である英語力の向上と学習継続型の回答が５名であった。それに加えて、「自然を大切にする」、「自分が親切にする」という回答もあった。

表８　そのためにあなたは何が出来ますか？

実践型の回答
＊就職先に来た外国人に教える　＊職場で外国人に聞かれたとき答えられるようにしておく　＊外国人の友人ができれば広める　＊ネットで世界に友達を作る、そして北海道を知ってもらう　＊より親切に接する　＊伝える　＊すばらしさを伝える、いろいろ案内する　＊話してあげたり、案内する　＊自分の知っている事を教える　＊ボランティアなどでの参加　＊実際にその場に連れて行く
学習継続型の回答
＊英語の勉強を続ける　＊北海道について勉強する　＊北海道と英語の勉強を継続　＊北海道をよく知り英語力を身につける　＊北海道をもっともっと知ることと語学力をつけること
自然尊重型とその他の回答
＊北海道を好きであり続ける　＊自然を守る　＊自然を残す　＊知ることと感じること　＊自分らしくいる

「英語で情報を発信することで世界の多くの人と交流できると思いますか」という質問に対しては、表９で示すように19名が「そう思う」、２名が「どちらかというとそう思う」と答えた。回答者全員が英語での情報発信は有効な情報伝達手段と考えていることがわかった。英語で情報発信することで、「日本語だけでは交流に限界がある。英語が出来ると、交流の可能性が広がる」、「英語圏以外でもほとんどの国で英語が使われているので英語は役に立ちそう」、「多くの人とコミュニケーションが取れる」、「世界中の人と交流できるのですばらしい」、「世界の共通語だから」との記述があった（表10参照）。

表９　英語で情報発信すると、世界の人との交流の機会が広がると思いますか？

そう思う	19名
どちらかというとそう思う	２名
どちらかというとそう思わない	０
そう思わない	０

表10　その理由

＊世界の人と交流できるのですばらしい
＊世界共通語の英語で発信する事で世界の多くの人と交流できる
＊世界共通語で、多くの人が学んでいる
＊様々な知識を知りえる
＊多くの人とコミュニケーション
＊世界と交流できる
＊留学やバイトであった人と交流できる
＊日本語だけでは交流に限界、英語ができると可能性が広がる
＊世界の人とのコミュニケーションには不可欠
＊自分の言いたいことが相手に伝えられる
＊コミュニケーションを取れる
＊英語なら世界中の人と情報交換できる
＊コミュニケーション
＊多くの人と意思疎通
＊英語である程度のことが伝えられる
＊ほとんどの国で英語が使われているから
＊英語は世界共通語

地域文化の英語での発信に関する質問への回答からわかったことは、このように、回答者の約90%が北海道地域に継続して在住すること、これまで外国人を案内した経験のない学生が多く、また経験があっても説明・案内がうまく出来なかったと思っているものが多いことであった。また学生は、北海道は外国人にとって魅力のある場所であると考え、北海道の魅力は「自然」、「食」、「ウィンタースポーツ」、「人」と答えた。そして、主体的に地域の情報発信をする意欲があり、情報発信のためには地域情報をさらに知る必要性を感じていた。さらに、英語はコミュニケーションには有効な手段で、世界の人と交流するためには自分の英語能力を高める必要があると考えていることがわかった。それでは、どのような情報発信をより有意義と考えたのであろうか。

次には、日本と北海道や札幌に関する情報発信学習を有意義と考えるか、その理由は何かという質問に対する回答をみていく。

４－２　日本や地域の文化を学ぶ英語授業

「英語授業で日本文化発信を学ぶことは有意義だと思いますか」と

いう質問に対して、表11で示すように「そう思う」は16名で、「どちらかというとそう思う」は4名、「どちらかというとそう思わない」は1名であった。その理由としては表12のような回答が記入された。「文化交流が出来る」、「自分の国を紹介できる」、「自分の文化を話せることはそれを改めて理解することになるから」、「日本のことを英語で学ぶ機会はめったにないから」、「日本のことはなかなか知らないし、英語で説明できると話が広がるから」、「日本を知ることが出来るから」などであった。「どちらかというとそう思わない」と回答したものは、理由として、「それほど重要でないから」と記入した。

表11　日本に関することを英語で話すことを学ぶことは有意義でしたか？

そう思う	16名
どちらかというとそう思う	4名
どちらかというとそう思わない	1名
そう思わない	0

表12　その理由

文化交流
- ＊文化交流ができる
- ＊自分の国を英語で紹介できる
- ＊文化を共有できる
- ＊国の情報交換は大切
- ＊日本はいい国だから話したい
- ＊外国人に日本を理解してもらえる
- ＊外国人に教えられる
- ＊日本のことはなかなか知らないし英語で説明できると話が広がるから

自国文化理解
- ＊自分の文化を話せることはそれを改めて理解する事になるから
- ＊日本の事を調べ、言えないフレーズや表現を学んだ
- ＊日本独自の事を英語で伝える試行錯誤が面白かった
- ＊日本の事を英語で学ぶ機会はめったにない
- ＊日本の事を知ることができる

そのほかの回答
- ＊それほど重要でないから

表13で示すように、「英語で北海道・札幌に関して話すことを学ぶのは有意義か」という質問に、17名は「そう思う」、4名は「どち

らかというとそう思う」と回答した。理由として記述されたものは表14のように、「就職後使いそう」、「外国人が職場に来たら使える」、「外国人に札幌について教えられる」、「札幌について英語で学べた」、「自分の街について知るきっかけになった」、「自分に身近な情報を伝えられる」などであった。

表13　北海道・札幌の情報を英語で話すことを学ぶことは有意義でしたか？

そう思う	17名
どちらかというとそう思う	4名

表14　その理由

文化交流
- ＊訪問者が来る限り必要
- ＊就職後使いそう
- ＊外国人に教えられる
- ＊外国人に教えられる
- ＊外国人に札幌のよさを伝えられる
- ＊自分の身近な事を説明できる
- ＊英語で札幌を教えたい

自国文化理解
- ＊この授業をきっかけに今までに知らなかった事を知ることができた
- ＊札幌についても英語についても学べた
- ＊違った方面から見る機会
- ＊英語だけでなく自分たちの町について知る機会になった

このような回答から、学生は日本に関することを英語で話すことで話題が広がり、文化交流が出来ると考えていることがわかった。さらに、自分にとって身近な北海道や札幌に関しての英語発信学習で学んだことは、就職後に職場などで使えるという具体的な理由があげられた。問11の「日本に関して話す事を英語で学ぶことは有意義か」という質問に対して、「どちらかというとそう思わない」と回答した学生は、問13の「北海道・札幌の情報を英語で話すことは有意義でしたか」という質問には「自分の身近な事を話せる」ので有意義であると回答した。このように学生は地域情報発信型の英語学習は、より身近で活用できるものと考えているのではないかと思われる。

次には、学生自身による情報検索、原稿作成、ガイド実践発表という実践型の授業に対する質問への回答を示す。

4－3　授業方法に関して

授業では、情報の検索の方法について説明・練習した後、日本、北海道、札幌関連事項の情報検索の演習をした。「授業でガイドのための情報を検索したことは有意義だったか」という質問には表15で示すように、「そう思う」と回答したのは14名で「どちらかというとそう思う」は7名であった。理由として挙げられたのは、「検索方法がわかった」、「地域情報で知らないことが多くあった」、「いずれ絶対使うときがくる」、「将来役に立ちそう」などであったが、反面、「授業時間を長く使うのは有意義ではない」という意見もあった（表16参照）。

表15　授業でガイドのための情報を検索したことは有意義でしたか？

そう思う	14名
どちらかというとそう思う	7名

表16　その理由

＊授業時間いっぱい使うのは有意義ではない
＊検索法がわかった
＊いい情報が取れた
＊自分の住んでいる地域のこと、イベントを知った
＊札幌を知るのは札幌人に必要
＊知っていることを再確認
＊日本・地域に関して知らないこともあった
＊いろいろな情報を知った
＊北海道にすんでいるのに知らないことがたくさんあった
＊他の場面でも使える
＊知らない事を改めて知ることができた
＊一つの事について深く調べることでいろいろな事を知れて楽しかった
＊将来役に立ちそう
＊いずれ絶対使う時がくる
＊今まで知らないサイトを見た。何かの時に使える

表17で示すように、「授業でガイドのための日本語原稿を作成した

ことは有意義でしたか」には、15名は「そう思う」、5名は「どちらかというとそう思う」、1名は「どちらかというとそう思わない」と回答した。「そう思う」理由としては、「日本語で考えることで言いたいことが明確になった」、「日本語だからわかりやすかった。」、「実用的」などがあげられた（表18参照）。

表17　授業でガイドのための日本語原稿を作成したことは有意義でしたか？

そう思う	15名
どちらかというとそう思う	5名
どちらかというとそう思わない	1名

表18　その理由

＊日本語だからわかりやすかった
＊実用的
＊日本語で考えることで言いたいことが明確になった
＊こういう機会はめったにないので

次いで「授業でガイドのための英語原稿を作成したことは有意義でしたか」という質問には表19で示すように「そう思う」は18名で、「どちらかというとそう思う」は3名であった。理由としては、「英訳は自分には大変だった」、「英語への訳し方が勉強になった」、「自分の原稿を添削してもらい間違いを知った」などであった（表20参照）。

表19　授業でガイドのための英語原稿を作成したことは有意義でしたか？

そう思う	17名
どちらかというとそう思う	3名
そう思わない	1名

表20. その理由

＊英語の勉強になった
＊英語への訳し方がわかった
＊英訳は自分には大変だから
＊自分で英文を作成することで英語の勉強になり、先生に添削してもらい間違いを知った
＊実際に使える

「授業でガイド実践発表をしたことは有意義でしたか」という質問には「そう思う」は17名、「どちらかというとそう思う」は4名であった（表21参照）。理由としては表22で示すように、「実践経験が今後に活かせる」、「相手に伝えるポイントがわかった」、「人前で話す緊張感があったが、ためになった」などであった。

表21　授業でガイド実践発表をしたことは有意義でしたか？

そう思う	17名
どちらかというとそう思う	4名

表22　その理由

＊緊張したけど為になった
＊人前で発表することはよい機会
＊文を作ることと、話すことは違っていた
＊適度な緊張感
＊実践経験は今後に活かせる
＊相手に伝えるポイントがわかった

このように学生は情報検索、日本語原稿作成、英語原稿作成、原稿を暗記してのガイド発表という授業の進行をおおむね肯定的に評価していることがわかった。

次には、卒業後の継続学習希望・通訳ガイドの仕事に関する回答をみていく。第1に、「卒業後に英語で地域情報を学習する希望があるか」、第2に、「通訳ガイドの仕事をする希望があるか」、第3に、「ボランティアとして英語ガイドをする希望があるか」、第4に、「教室で配布された学生作成のガイド資料は一般の人が利用できるか」、最後に、「授業でうけたプロ通訳ガイドの特別講義に対する感想」であった。

4－4　生涯学習への展望

「地域情報をさらに英語で学びたいですか？」という質問には、表23で示すように「そう思う」は14名、「どちらかというとそう思う」

は4名、「どちらかというとそう思わない」は2名で、「そう思わない」は1名であった。「そう思う」理由として、「何を聞かれても答えられるように」、「就職先で使うだろうから」、「結構楽しかったから」、「自分の土地のことをきちんと伝えられるようになりたい」などが記入された（表24参照）。

表23　地域情報をさらに英語で学びたいですか？

そう思う	14名
どちらかというとそう思う	4名
どちらかというとそう思わない	2名
そう思わない	1名

表24　その理由

＊英語が上手になりたいから
＊何を聞かれても大丈夫な位になりたい
＊就職先で使うだろうから
＊楽しかったから
＊知識を増やすのはいいことだから
＊ HP に書いたり、外国人に紹介するために学びたい
＊自分の土地の事をきちんと伝えられるようになりたい

次いで、「将来通訳ガイドになる希望はありますか」という質問に対しては、表25で示すように「そう思う」が6名、「どちらかというとそう思う」は4名、「どちらかというとそう思わない」は4名で、「そう思わない」は7名であった。「そう思う」とこたえたものは、「観光に興味があるので」、「年をとってから資格を取りたい」と理由を挙げ、一方、そう思わないと答えたものは「他に興味のある仕事があるので」、「無理だと思うから」、「自分の夢とは違うから」などの理由を記入した（表26参照）。

表25　将来通訳ガイドになる希望はありますか？

そう思う	6名
どちらかというとそう思う	4名
どちらかというとそう思わない	4名
そう思わない	7名

表26　その理由

なりたいと思う
＊観光に興味があるのでなりたい
＊年をとってから資格をとりたい
なりたいと思わない
＊他に興味のある仕事があるのでならない
＊夢とは違う
＊英語力が足りない
＊自分には無理
＊なれないと思う

表27で示すように「将来ボランティアなどで外国人を案内したいですか？」という質問には10名が「そう思う」、5名が「どちらかというとそう思う」と回答し、「そう思わない」と答えたものは6名であった。「そう思う」理由としては、「いろいろな国の人と交流したい」、「案内すると自分も楽しいから」などが記入された（表28参照）。

表27　将来ボランティアなどで外国人を案内したいですか？

そう思う	10名
どちらかというとそう思う	5名
そう思わない	6名

表28.　その理由

＊いろいろな国の人と交流したい
＊案内して楽しむと自分も面白いから

「授業発表のガイド原稿は一般の人が活用できると思いますか」という質問に対して、表29で示すように「そう思う」は9名で、「どちらかというとそう思う」は7名、「どちらかというとそう思わない」は3名で、「そう思わない」は4名であった。「そう思う」「どちらかというとそう思う」という理由としては、「短大生が考えたものだから、難しすぎずやさしすぎない」、「自分なりにわかりやすく作ったから」、「うまく出来たと思うから」、「みんなわかりやすい英語なので使

いやすいはず」、「アレンジしだいで使える」との記述があった。一方、「そう思わない」理由としては、「内容が浅すぎる気がする」、「もっと詳しいほうが良いと思うから」があげられた（表30参照）。

表29　授業発表のガイド原稿は一般の人が活用できると思いますか？

そう思う	9名
どちらかというとそう思う	7名
どちらかというとそう思わない	3名
そう思わない	2名

表30　その理由

使いたいと思う理由
- ＊うまくできたから
- ＊北海道がよく知っていれば使えると思う
- ＊みんなわかりやすい英語なので使いやすい
- ＊内容を理解していれば使える、日本語の原稿は使いやすい
- ＊そのために作った
- ＊自分なりにわかりやすく説明できたから。
- ＊短大生が考えたものだから難しすぎず易しすぎない
- ＊アレンジ次第で使える
- ＊私が日本語を作ったから
- ＊使う機会はあると思う
- ＊機会があれば
- ＊地域の事を誰かに伝える時に

使わないと思う理由
- ＊内容が浅すぎる
- ＊もっと詳しくすることができる気がする
- ＊これから自分は英語に関わりないから

「プロガイドが授業に参加したことは有意義でしたか」に対して表31で示すように「そう思う」は18名で、「どちらかというとそう思う」は3名であり、全員が社会人女性のプロ通訳ガイドによるガイ特別講義を肯定的に受け止めていた。理由としては表32で示すように、「社会人女性で英語のうまいのが印象的だった」、「すごいと思った」、「話すことが的確でわかりやすかった」、「リアルだった」、「人生の先輩としてもためになった」、「実践的だった」などが記入された。

表31　プロガイドが授業に参加したことは有意義でしたか？

そう思う	18名
どちらかというとそう思う	3名

表32　その理由

＊勉強になった。英語を話せる日本人のほうが安心する
＊印象的だった
＊ためになった。人生の先輩としても
＊話すことが的確でわかりやすかった
＊リアルだった
＊実践的だった
＊先生以外の例を見られた
＊聞きやすくわかりやすかったのでとても勉強になった
＊自分のためになった
＊すごかった！

回答から、ほとんどの学生が卒業後も英語での地域情報に関しては継続して学ぶ希望があることがわかった。将来、プロガイドの仕事をする希望があるという回答者は約半数で、仕事としては興味がないものや自分の英語力では無理だろうと考えるものもいた。しかし、年をとったら資格を取る、観光に興味があるのでと答えたものを含めて、半数は将来ガイドの仕事を希望した。ボランティアガイドに関しては回答者の約3分の2に当たる15名が希望したのは、プロガイドの希望と比較するとボランティアを希望する人数が多かった。通訳ガイドを仕事とするには難しいかもしれないと考えていても、ボランティアなら他の国の人と交流ができて、自分も楽しめると考えている。しかし、理由の欄への書き込みが少ない事などから、学生たちには、プロガイドやボランティアガイドに漠然とした憧れがあるものの、どのような仕事でどのような能力が要求されるのかが、具体的でなかったことも考えられる。

授業で作成したガイド原稿に関しては、3分の2の16名が、活用できる内容であると肯定的に評価した。また、プロのガイドの特別講義に対して、ほぼ全員が有意義であったという回答であったが、「人生の先輩としてもためになった」という感想で示されたように、社会

人で英語学習を継続している女性に、自分の将来を重ねて尊敬の気持ちを持ったのではないかと思われる。

5．考察

地方の情報を英語で発信する重要性は、ホームページに英語サイトを持つ市が多いことでも示されるであろう。2007年9月に行った筆者の調査では、北海道の36市の半数以上20市が英語のサイトを開設していた(注17)。英語での地域情報発信型の授業は北海道の英語教育の有効な方向のひとつであろう。なぜならば、北海道地域への海外からの訪問者数（実人数）は、北海道庁の発表では2002年度には279,350人であったのに対して、2006年度には590,650人と倍増している(注18)。北海道にいながら海外の人と接する機会は確実に増加するであろう。その場合、国際通用語として英語を使用してコミュニケーションをとる必要も発生すると思われる。このような状況からも、将来地域の情報を英語で発信できる人材の育成は北海道における英語教育のひとつの使命ではないだろうか。

発信型英語授業の内容として、英語ガイドを実践的に取り上げるのは有意義であったと考えられる。その理由は第一に地域情報を発信することへの学生の関心や興味が深まったことであった。卒業後にほとんどの学生が北海道に在住を予定しており、日本についてのみならず、地域情報の検索方法を学び、ガイド実践発表を行ったことは学生の地域に関する関心の掘り起こしにつながったと思われる。

第2に、卒業後の英語学習への目標設定の一案を示す効果があったと考えられる。卒業後も英語学習を継続したいという希望はあっても、学生には具体的にどのような目標を持ち、どのような学習を行うといいのかが明確でない場合がある。しかし、今回の授業では、自分の発表経験に加えて、卒業後に利用できるクラス全員の発表資料が配布されたために、英語で地元のことを話す資料を活用することができると思われる。

さらに、2名の社会人女性プロ通訳ガイドに直接接し、特別講義の中で、彼女たちの経歴、勉強方法などを学ぶことは有意義であったと思われる。30歳代から英語を再学習し、資格を取得し、実践経験をつんできた女性の生き方から学ぶことで、将来の目標を持つことが出来た学生がいたのではないだろうか。

本稿は、短期大学英文学科の新設科目「オーラルガイド研究」の実践報告である。アンケート回答者が女性のみで人数も21名であったことなど、十分でない点はあるが、発信型英語教育において、地域情報を中心とする学習の試みは有意義であったと思われる。

注釈

1．英語を第2外国語として使用するものが増えたことと、インターネットの普及で英語母語話者という呼び方では不都合が生じたので、広く使われるようになった用語。
2．日本文化という用語は、茶道、華道、伝統芸能などをさす狭い範囲で用いられる事があるが、ここでは、日本人の生活、考え方、事物などを含む広い範囲で包括的な意味で使用する。
3．異なる多様な文化に優劣をつけるのではなく、すべての文化を同等のものとして尊重する立場。英語教育においては、英語圏の文化を優越するものとみなすのではなく、非英語圏の文化と英語圏の文化を対等に尊重するという考え。英語教育においては、英米文化圏への過度の追従を否定し、英語による世界支配を警戒する文脈で使用される。
4．「タスクの定義はTBLTでも様々だが、「言語を用いて遂行する活動あるいは目標」というのが共通理解となっている。」リチャーズ＆ロジャーズ著、高見沢孟監訳「世界の言語教授・指導法」2007年、東京書籍、p279
5．JETプログラムで2006－2007年に外国語指導助手として採用されたのは5057名 http://www.jetprogramm.org（2008年2月12日）
6．JACET北海道支部　平成18年第2回研究会「授業を変える視点」 佐々木智之　発表資料には、「日本についてのことわざや日本文化を表す言葉の説明などで文化社会をテーマに自分の意見を述べる授業」、「日本の教育問題について英語で意見を述べる」、「日本の10代の問題」、「国際接客の場面でコミュニケーションをとる」、「日本文化、社会現象に関して英語でプレゼンテーションを行う」、「広島と平和をテーマにコ

ミュニケーション方略の習得」などといった授業例が紹介された。

7．日本紹介を内容とする大学生用教科書の例

①木塚晴夫 *Let's Talk About Japan in English*, Kinseido Publishing Co.,Ltd, 2000

② Bates Hoffer，本名信行，田嶋ティナ宏子 *Get to the Point! Talking and Writing about Japan* —英語で発信する日本文化，ピアソン・エデュケーション，2003

③ Renee Sawazaki, Morijiro Shibayama, *Alison's Reports on Japan* アリソンの日本滞在記，Sanshusha，2005

④ David E. James *Hello Again! Cultural Exchange and Everyday Life*, Thompson 2007

⑤河原俊昭，池中雅美，後藤田遊子，Joe Streetman, *Tourism English Guiding a foreign Friend throughout Japan* 観光英語で日本案内，英宝社，2006

8．JNTO　独立行政法人国際観光振興機構　http://www.jnto.go.jo

9．JNTO の調査「JNTO 訪日外客実態調査 2006-2007〈訪問地調査編〉」2008 年 2 月 5 日報道発表上記 http://www.jnto.go.jp（2008 年 2 月 10 日）

10. http://www.milt.go.jp（2008 年 2 月 10 日）

11. 通訳案内士法（昭和 24 年法律第 210 号）

12. 外国人観光旅客の来訪地域整備等の促進による国際観光の振興に関する法律第 26 条第 1 項。試験実施は、地方自治法第 2 条第 8 項による自治事務。

13. http://www.jinto.go.jp, http://www.hello.ac,

14. http://www.pref.hokkaido.lg.jp, http://www.hakodate-kankou.com, http://www.city.otaru

15. http://www.welcom.city.sapporo.jp, http://www.sta.or.jp,

16. TBLT（Task based Language teaching）はコミュニカティブ教授法と言語学習仮説を共有する英語教授理論。6 を参照。

17. 北海道の全市町村のホームページのフロント画面に英語サイトがある市。

35 市のうち 20 市：　赤平、旭川、網走、石狩、岩見沢、恵庭、江別、小樽、帯広、北広島、北見、釧路、札幌、千歳、苫小牧、函館、深川、三笠、室蘭、紋別、

130 町のうち 15 町：厚沢部、浦河、江差、上富良野、上湧別、倶知安、鹿部、白老、新十津川、壮瞥、滝上、豊頃、東神楽、東川、陸別

15 村のうち 1 村：西興部

18. http://www.kantei.go.jp/jp/singi/kanko/suishin/dai10/10shiryo1/pdf#serch= 北海道

参考文献

1．Crystal, D., *English as a Global Language*, Cambridge University Press 2003, p.61.
2．Ellis, R., *Task-based Language learning and teaching*, Oxford: Oxford UP, 2003, pp. 4-5.
3．リチャーズ＆ロジャーズ，高見沢孟監訳『世界の言語教授・指導法』東京書籍，pp.277-300
4．鈴木孝夫『日本人はなぜ英語ができないか』岩波書店，1999
5．西蔭浩子「DLPにおける発信型英語教育のパイロットスタディ」『大正大学研究紀要』第85号　2000，pp.171-184
6．益田修代「実験的「使う力アップ」クラスから探る大学英語教育」『慶應義塾大学外国語研究』第3号，2006，pp.39-55.
7．斉藤兆史「英語で日本を発信するために必要なこと」『英語教育』2007年6月号，pp.32-33
8．富永幸「高校での「?」に答える」『英語教育』2007年6月号　pp.12-13
9．松岡信哉「地方の文化を紹介する」『英語教育』2007年6月号　pp.26-27
10．中邑光男「新人ALTへのオリエンテーションに見る「日本」」『英語教育』2007年6月号　pp.20-21

【資料】

学生発表原稿例１

サッポロテレビ塔

この背の高い赤色の塔は札幌の代表的な観光名所です。開業は1957年８月。テレビ塔は東京タワーが建てられる１年前に建てられ、設計者は双方ともに内藤多仲です。もともとは札幌圏放送局の電波発信塔として使われていました。しかし1956年に手稲山を開拓して送信所を設置し、全てのテレビ送信所が手稲山に移りました。現在は中継局施設と予備送信所が残るのみとなりました。

地上からアンテナの先までの高さが147.2mで、日本国内の塔の高さランキングではさっぽろテレビ塔は20位。地上90メートルの位置にある展望台では望遠鏡により60km先まで眺望することができます。西には手稲山や大倉山シャンツェ、東には豊平川や札幌ファクトリー、石狩平野を一望。また重量は鉄塔部だけで1,000トンもあります。

営業時間は９：30～21：30まで。３階までは無料ですが、展望台は大人700円。札幌時計台・さっぽろテレビ塔共通入場券も発売されています。大人720円、高校生640円で大変お得です。是非買って行ってみて下さい。

地下１階はさっぽろ地下街オーロラタウンと接続しており飲食店があります。地上１階には手焼きせんべいの店、寺子屋本舗があります。せんべいは日本で昔からよく食べられているお菓子なので是非一度食べてみて下さい。また小樽ビールの店「ライブシュパイゼ」があり、小樽ビールとドイツの軽食をおいしく食べさせてくれ、ドイツの雰囲気を楽しませてくれます。その他に案内所やチケット売場もあります。２階には多目的ホールがあり、そこでは、昼は会議・集会などのコミュニケーションの場として、また発表会や展示会などの晴れの舞台の場として、夜は札幌の夜景を望みながらのパーティーや結婚披露宴など、使い方に合わせて自由に利用することが出来ます。３階にはお土産コーナーと、札幌の街並みを一望しながら食事を楽しむことができるレストランがあります。

展望売店で一番人気商品は、さっぽろテレビ塔のキャラクター「テレビ父さん」グッズです。週末には売り切れる事もあります。早めにゲットしてね。ちなみにテレビ父さんは49歳です。テレビ父さんには仲の良い友達がいます。誰だかわかりますか・・？それはテレビ父さんの３倍長生きしていて、128歳の「時計大臣」です。札幌時計台のマスコットです。

Sapporo Television Tower

This is a big red tower that is one of the main tourist attractions of Sapporo.

This tower opened in August 1957. Tachu Naito built Sapporo Television Tower and the next year he built Tokyo Tower. Originally, it was used as the electric wave dispatch of the Sapporo area broadcasting stations. However, in 1956 a wave transmitting station was established on the top of Mt. Teine. So all television transmitting stations moved to Mt. Teine. Only the relay station and the reserve transmitting station remain now.

The height from the ground to the point of an antenna is 147.2m. It is 20th highest tower in Japan. From the observation deck 90m above ground, you can have 60km view of the city and the surrounding area by telescope. You can see the Toyohira River, the Sapporo factory and the Ishikari Plain in the east, and Mt. Teine and the Ookurayama schanze in the west. The steel of this tower weighs over 1000t.

Business hours are 9:00 to 21:30. To the third floor we can go up free. The admission fee to the observatory is 700 yen for adults. The Sapporo Clock Tower and Sapporo Television Tower's common admission ticket is also sold. It is cheaper to buy the combined ticket, if you plan to visit both places. Because it is 720 yen for adults and 640 yen for high school students. It's much cheaper.

The basement is linked to the underground shopping center 'Aurora Town', and there are restaurants. There is a handmade rice cracker shop 'Terakoyahonpo' on the first floor. In Japan, many adults and children love rice crackers, so please try them. And there is a café bar of Otaru beer 'LEIBSPEISE' . We can dip ourselves into the German atmosphere and enjoy drinking Otaru beer with light German meal. In addition, there are also an information desk and a ticket counter. There is a multipurpose hall on the second floor. It can be used for conferences or meetings as well as presentations or exhibitions during the day. After dusk, weddings and parties can be held with a night view of Sapporo in the backdrop. The potential is endless. On the third floor, there is a souvenir shop and a restaurant. We can enjoy a meal while looking at the whole view of

Sapporo.

The most famous gift item of Sapporo Television Tower is 'Telebitousan'. It's often sold out during the weekend. If you want to get one, you must come in the morning. By the way, 'Telebitousan' is 49 years old and he has a very good friend. Can you guess who? It's 'tokeidaijin'. He lives longer than 'Televitousan'. He is 128 years old.

学生作成原稿例２

札幌の３つのスポーツチームとその施設

札幌には３つのスポーツチームがあります。わかりますか？

プロ野球チーム“北海道日本ハムファイターズ”プロサッカーチーム“コンサドーレ札幌”とプロ男子バスケットボールチーム“レラカムイ北海道”です。それら３つのチームの本拠地は札幌です。この中でも一番有名で、リーグでも優勝しているすばらしい、野球チーム、北海道日本ハムファイターズの本拠地について、お話します。

このチームは2004年に札幌に来た新しいチームです。

１．ファイターズについての紹介

まず、このチームの本拠地札幌ドームです。このドームの近くにはあの有名な羊が丘公園もあります。このドームは1998年６月作り始め2001年開業しました。目的は2002年開催の日韓ＦＩＦＡワールドカップのためです。その大会では、イングランド代表ベッカム選手もプレーしました。スポーツだけでなく、人気のあるアーティストのコンサートなどもここで開かれます。

総工費は422億円で敷地面積は305,230㎡

天然芝移動式サッカーフィールド式で有名です。縦120m、横85m、重さ8,300tの巨大な天然芝のステージが移動します。天然芝のステージは試合のない時は屋外のオープンアリーナで良好な芝を育成しています。

最大収容人数は53,845人で野球の大切な試合などには満員になることもあります。

また飲食店が充実していてスポーツ観戦をしながらおいしい料理を食べることができます。

私のお勧めはドーム内の１階西側・南側２箇所にある札幌後楽園ホテルの売店のカレーです。チキンカレーとビーフカレーがあり二つともとても

美味しいです。

また、このドームには、展望台があり試合のない日でも楽しむことができます。またツアーがあり、選手の控え室など普段見られないところを見ることができます。

ドームに行くにはさまざまな方法で行けます。その中でも、地下鉄だと大通りから東豊線に乗り終点の福住駅まで約１５分位で行くことができ、便利です。

２．コンサドーレについての紹介

２つ目に有名なチームはサッカーチームコンサドーレ札幌です。このチームはここの本拠地はチョコレートファクトリーと言われる石屋製菓の工場です。そこにある白い恋人パークというところで練習をしています。ここには工場見学もでき、選手の練習風景も見ることが出来ます。白い恋人というお菓子は北海道の有名なお菓子の１つです。

３．レラカムイ北海道についての紹介

３つめは最近2007年に札幌にできた、バスケットボールチーム、レラカムイです。このチームの本拠地は札幌ドームの近くの月寒アルファコートドームです。この月寒ドームは地域に密着したドームでいろいろなイベントが行われる場所です。アイススケートリンクができたり、マーケットが開かれたりしています。

４．まとめ

札幌には以上３つのスポーツチームがあります。札幌は人気のある都市ですが、スポーツ観戦が好きな方にはお勧めの都市です。冬にお越しの際は暖かい服を持って寒い札幌を楽しんでください。

Sports teams in Sapporo

Introduction

Sapporo has three professional sport teams. Do you know them?
First, a professional baseball team “Hokkaido Nippon-Ham Fighters”.
Second, a professional football team “Consadole Sapporo”.
Finally, a professional basketball team “Rera Kamuy Hokkaido”
These teams are based in Sapporo city. One of the team, Hokkaido Nippon-Ham Fighters is more popular than other teams because this team

became the 2006 champion of the all baseball teams in Japan. This team came to Sapporo in2004.This team the first professional team in Hokkaido. Today I will be talking about the home stadium of the Hokkaido Nippon-Ham Fighters.

1. about Fighters

First I'm going to talk about the Sapporo Dome. This dome is the base for the Fighters.

This dome is near the Hitsujigaoka park, a famous park in Japan.

This dome was opened in June 1998 for the 2001 FIFA world Cup in Japan and Korea. David Beckham played here for a match. And sometimes popular singers hold concerts. The total cost of construction was about 40billion and the area is about 300 ㎡ .

The Dome uses the world's first "hovering soccer stage". On the ground artificial turf is used for baseball games but when soccer games are held a part of wall opens. Then, the gigantic natural turf soccer stage, which is 120m by 85m and weighs 8,300 tons, slowly moves into the arena.

Finally, the natural turf stage was put of the ground. Soccer games are played on the natural turf. Capacity is about fifty thousand. When big baseball games are held, this dome becomes packed to the capacity.

And this dome has many restaurants. We can eat nice food while watching sports.

My recommendation is the curry at the Sapporo Korakuen Hotel restaurant. This shop is on the first floor near west and south exit. Chicken curry and Beef curry are the best.

We can enter the dome when they don't have a game. We can take part in a Dome tour. The participants of the tour visit the backstage, including bullpens and the locker rooms used by the popular players, which you cannot usually see. This dome is near the subway station. From downtown Sapporo Odori station to the dome, it takes about 15minutes on the Toho-line.

2. About Consadole sapporo

The second famous team is Consadole Sapporo. This team is a football team.

This team is based in Ishiya Chocolate factory. This factory has the

Shiroi-koibito park. Shiroi-koibito is the famous popular cookies. Consadole Sapporo's players practice on the soccer field. We can watch many players here.

3. About Rera Kamuy Hokkaido

Third is Rera Kamuy Hokkaido. This team's foundation was 2007.
It's a very new team. This team is based in Tsukisamu alfa Court Dome.
This dome is near the Sapporo dome.
This Tsukisamu Dome is used by many people because many events are held here all year round. For example an ice skate rink is made here and flea markets are held.

4. Finally

Sapporo has these three major teams. Sapporo is a popular city, especially for those who like watching sports. When you are going to Sapporo in winter, please bring warm clothes. Please enjoy Sapporo. Thank you.